

実践事例 第4学年 小単元名 『郷土の開発 見沼代用水』

小単元の目標

現存する重要建造物の見学や、工事に用いられた道具の疑似体験を通して、先人の苦勞や願いについて興味関心をもつことができる。

見沼代用水の流れを白地図に記したり、古文書史料やその他の文書資料、祠等に記されている見沼代用水の開削の様子を読み取ることができる。

調べたことをもとに、井沢弥惣兵衛の知恵や見沼代用水の開削にあたった先人の苦勞や願いを考え、自分の言葉でまとめることができる。

単元の評価規準

社会的事象への関心・態度・意欲	社会的な思考・判断	観察・資料活用 の技能・表現	社会的事象について の知識・理解
地域の発展に尽くした先人の働きに興味を持ち、見学したことや資料を生かして、その苦心や願いを知ろうとする。	先人の働きや工夫、努力により、地域がどのように発展したのかを具体的に考え、適切に判断している。	今に残る史跡や資料を、めあてをもつて調べるとともに、わかったことを工夫して表現する。	地域の発展のために尽くした先人の働きによって、地域の人々の生活が向上してきたことを理解している。

単元の評価計画

学習内容	評 価 規 準			
	社会的事象への 関心・態度・意欲	社会的な 思考・判断	観察・資料活用 の技能・表現	社会的事象について の知識・理解
1 見沼代用水元坎樋管伏替図と現在の取り入れ口の写真を比較し、その相違点を話し合う。	見沼代用水について関心を持ち、用水がいつ、だれが、何のために、どのように作られたのか関心をもつ。	明治期の取り入れ口と現在の取り入れ口の様子の相違点を考える。	見沼代用水元坎樋管伏替図（明治期のもの）から、当時の取り入れ口の様子を読み取る。	
2 見沼代用水を白地図		他の河川と合わさったり、	白地図に見沼代用水の流れ	

に記入し、他の川と立体交差から、人工的に作られた川であることを読み取る。		立体交差していることから、見沼代用水は人の手によって作られたことに気付く。	を記入する。	
3 見沼代用水の水は何に使われていたのかを写真資料、地図を用いて調べる。				見沼代用水は見沼たんぼ開発のために、井沢弥惣兵衛が中心となって作られたことを理解している。
4 人物年表を活用して、井沢弥惣兵衛の人物像を調べる。	見沼代用水の開発に尽くした井沢弥惣兵衛の働きに関心をもっている。		人物年表を活用して、井沢弥惣兵衛の功績を調べる。	井沢弥惣兵衛の功績を理解することを理解している。
5 見沼代用水を開発しなかった理由を文章資料を活用して調べる。		上流の村々、下流の村々の問題点をもとにして、村人の気持ちや願いを考える。	資料から必要な情報を取りだし、箇条書きにまとめる。	
6 利根川から見沼代用水を引いた理由を調べる。		星川の流れを利用したり、上流、下流から工事を進めた工夫について考える。	地図をもとに、利根川から見沼代用水を引いた理由を調べる。等高線の見方がわかる。	
7 見沼代用水には、井		伏越や掛渡井等はなぜ、ど	井沢弥惣兵衛が伏越や掛渡	井沢弥惣兵衛が伏越や掛

沢弥惣兵衛のどのような知恵や工夫があるのか調べる。		のように作られたのかについて、自分の言葉でまとめる。	井等を作った理由を具体的に調べる。	渡井等を作った理由や、苦労、努力等を理解している。
8 見沼代用水の開削の様子を調べる。		現在の工事の様子と比較し、その違いを考える。	資料を用いて、工期や人足、用いられた道具やかかった費用等を具体的に調べる。	
9・10 当時の工事を体験する。	見沼代用水の開発に尽くした先人の気持ちに触れようとする。	工事の体験から、工事に係わった村人たちの工夫や努力、気持ちを考える。		
11 通船堀について調べる。			通船堀の役割について調べる。	通船堀によって、物資の輸送が便利になったことを理解している。
12 これまでの学習をふまえ、村人の気持ちになって井沢弥惣兵衛に感謝の手紙を書く。	見沼代用水が現在でも役立っていることに誇りと愛情をもち、地域の発展のために自分ができることを考えている。	見沼たんぼの恩恵を受けた村人の気持ちと、井沢弥惣兵衛の気持ちを考える。		見沼代用水が地域の人々の生活の向上につながったことを理解している。
13・14 地域の新田開発を調べる。		見沼の開発との相違点を考える。		地域の開発の様子を理解している。

小単元における読解力育成の工夫

児童の発達段階に応じて読み下した古文書史料や人物年表、絵図に記されている様々な情報を取り出す力を育成するために、資料の見方を学ぶ時間を設定する。社会的事象の意味を十分に理解させるために、取り出した情報を自分の言葉で箇条書きにさせる学習を設定する。他の社会的事象との関連や、相違点を考えさせる時間を設定する。

小単元の流れ

(14 時間扱い)

読解力育成のポイント

1 つかむ (2 時間)

見沼代用水元坎樋管伏替図と現在の取り入れ口の写真を比較して、相違点を話し合う。見沼代用水を白地図に記入し、他の川と立体交差から、人工的に作られた川であることを読み取る。

(見沼代用水を見学する。無理な場合は写真資料や映像資料を用いる。)

2 調べる (9 時間)

見沼代用水の水は何に使われていたのかを写真資料、地図を用いて調べる。

人物年表を活用して、井沢弥惣兵衛の人物像を調べる。

・なぜ、河川や池等の開発を多く手掛けたのかについて考える。

見沼代用水を開発しなければならなかった理由を文章資料を活用して調べる。

・当時の社会情勢を把握した上で、見沼代用水開発を願った村人の気持ちを考える。

利根川から見沼代用水を引いた理由を調べる。

・地形図を用いて考える。

見沼代用水には、井沢弥惣兵衛のどのような知恵や工夫があるのか調べる。

・星川との合流

・「伏越」「掛渡井」等の重要構造物

・「東縁」「西縁」について

見沼代用水の開削の様子を調べる。

・文章資料を用いて、工期や人足、用いられた道具やかかった費用等について調べる。

・現在の工事の様子との違いを考える。

当時の工事を体験する。

・前時で調べた道具を体験する。

・工事に関わった当時の人々の気持ちについ

絵図の見方、写真の見方を学習する時間を設定する。

現在にはない建造物に気付かせ、課題を自ら発見する力の育成を図る。

相違点を見つけやすくするために、箇条書きにまとめる。

人物年表の見方を学習する時間を設定する。

文章資料の見方を学習する時間を設定する。

社会的事象を自分の言葉で箇条書きに書き直すことで、理解を深めることができるようにする。

2つの文章資料を比較することで、相違点を明らかにできる力の育成を図る。

人々の開発に対する願いを、文章資料の言葉を用いて考えさせるようにする。

工事を疑似体験することで、文章資料ではわからない先人の知恵や工夫、努力を考えさせるようにする。

て考える。
通船堀について調べる。

まとめる（3時間）

これまでの学習を踏まえ、村人の気持ちになって井沢弥惣兵衛に感謝の手紙を書く。

- ・これまで調べた内容や疑似体験を踏まえて、自分の言葉でまとめる。

地域の新田開発を調べる。

- ・見沼代用水の開発との相違点を考える。

これまでに学習した内容を踏まえて、見沼見沼代用水ができた後の生活はどうなったのかを話し合わせる。

村人になったつもりで、井沢弥惣兵衛に手紙を書くことで、村人の気持ちを考えさせるようにする。

本時の目標

文章資料を活用して、村人が見沼代用水の開発を願った理由を明らかにすることができる。

本時の読解力育成の工夫

文章資料から取り出した情報を、自分の言葉で箇条書きにまとめさせる指導の工夫
2つの資料の比較を行い、類似点や相違点を見つけさせる指導の工夫
既習内容との関連を図り、思考の連続ができる指導の工夫

使用する教材・教具（資料）

- ・上流の村々、下流の村々の願い（出典 『わたしたちの郷土 さいたま』）
- ・国語辞典

主な学習活動・内容	指導上の留意点（ ）評価	読解力育成のポイント
1 本時の問題点を明らかにする 2 理由を予想する ・コンクリートで囲われていないので、見沼ため井が壊れたのではないか。 ・米将軍がもっと米をつくるように命令をしたのではないか。 ・川につながっていないので、新しい水が入らず、見沼ため井の水がなくなってしまったのではないか。	すでに見沼ため井があるにも関わらず、人々は見沼代用水の開削を願ったことを知らせる。 これまでの学習した内容から関連させ予想を立てさせる。（関連させる内容） ・見沼代用水元坎樋管伏替図から、当時の建造物は木造であったこと。 ・江戸時代には米を年貢として納めていたこと。 ・徳川吉宗は米将軍と呼ばれていたこと。	これまでに学習した内容を掲示し、「当時は <u>だから見沼代用水が必要な</u> のではないか。」というように、理由となる部分を考えるよう助言する。
学習問題 見沼代用水を開発しなければならない理由を探ろう		
3 見沼代用水の開発を願った理由を文章資料から読み取る。	児童の発達段階や理解の程度に応じた文章資料を用意する。 語句の意味を理解させるために国語辞典や、教師が作成した資料を活用する。	上流の村、下流の村ではどのようなことが問題になっていたのか調べるよう助言する。 下線にある難しい言葉、意味がよくわからない言

	<p>見沼ため井の問題点を明らかにするために、文章に線を引かせる。 線を引いた箇所を抜き出し、自分の言葉を加えて、箇条書きにまとめさせる。</p> <p>資資料から必要な情報を取りだし、箇条書きにまとめることができる。</p>	<p>葉については、質問したり、国語辞典を用いたりして、わかりやすい文章にまとめるよう助言する。</p> <p>下線が引けない児童には、「害(がい)」という言葉に注目するよう、助言する。</p>
<p>4 文章資料からわかった情報を発表し合い、なぜ見沼代用水を作らなければならなかったのかを考える。</p>	<p>友達からの情報を補完することで、自分が取り出した情報を確かなものにさせる。 上流の村、下流の村それぞれの問題点を比較し、その相違点を明らかにさせる。 人々の願いは何なのかを考え、発表させる。</p> <p>思上流の村々、下流の村々の問題点をもとにして、村人の気持ちや願いを考えることができる。</p>	<p>抜き出した情報の中で、共通する言葉を見つけさせる。 水害や干害によって受ける被害を考えさせる。 農作物ができないと、人人の生活はどうなるのかを既習内容と関連させて考えさせる。</p>
<p>5 学習のまとめをする</p>	<p>今日の学習を振り返り、自己評価をする。 学習カードに目を通し、個に応じたコメントを記入することで、今後の学習に対する確かな方向性と意欲の向上を図る。</p>	

実践を終えての考察

児童の発達段階に応じて読み下した古文書史料や人物年表、絵図に記されている様々な情報を取り出す力を育成するために、資料の見方を学ぶ時間を設定する。

[調査・研究の方策(1) -]

ここでは、消防署やゴミ処理場の学習のように見学や調査活動を中心とする学習から資料を読み取ることを中心とする学習へと学習形態が転換する。また、提示する資料も絵図や人物年表、文章資料など、グラフのように一目で情報が読み取れるものではなく、児童自ら資料に働きかけなければならないものが多い。そのため、学習で提示する資料を十分に読み取るために、教師は児童の発達段階や児童の能力に応じて様々な資料を提示、活用するとともに、それぞれの資料を読み取る指導を行う必要がある。

そこで、児童に資料を読み解く力を十分に身に付けさせるために、資料を活用する時間のはじめに、この時間で用いる資料の説明をし、どのように資料を読み取るのかを説明した。それぞれの資料の読み取る方法を、児童の能力に応じて3つのステップで表し、児童に資料をどのように読み取ればよいのか、見通しをもって活動させるようにした。

活動例1 人物年表を活用して、井沢弥惣兵衛の人物像を調べる。

ここでは、井沢弥惣兵衛の人物年表を配布する際に、児童に人物年表の読み取り方のステップを説明し、井沢弥惣兵衛の人物像にせまる学習を行った。児童に指導したステップは以下の通りである。

ステップ1 人物がどのような働きをしたのか、分かるところに線を引く。

ステップ2 人物の働きの共通点を考える。

ステップ3 その人物の特ちょうを書き出す。

ステップ1では個人学習を行い、井沢弥惣兵衛がどのようなものを作っていたのか、わかるところに下線を引くよう指示をしたところ、全員の児童がクリアすることができた。

ステップ2ではグループ学習の形態を取り入れた。下線を引いた箇所をピックアップさせ、その共通点をグループで考えさせた。児童は「用水」「池」「沼」などをキーワードとしてとらえ、『井沢弥惣兵衛は川や池を作るのが得意な人。』とまとめることができた。

ステップ3では学級全体で学習する形態にし、「川や池は人が作るものなのか。」という発問をした。児童はこれまでの学習から、川や池は自然にできるものであること、見沼代用水元坎樋管伏替図から、取り入れ口には木でできたトンネルのようなものがあったことから、ステップ2のまとめに付け加えて『井沢弥惣兵衛は何か目的があって、わざわざ用水や池を作っていた。』とまとめ直すことができた。これは資料を批判的に読み取る力の育成にもつながった。

また、資料を読み取るステップについては教室に掲示し、児童の目に触れさせることで、いつでも児童が資料を読み取る活動手順の確認ができるようにした。



社会的事象の意味を十分に理解させるために、取り出した情報を自分の言葉で箇条書きにさせる学習を設定する。 [調査・研究の方策(2) -]

これまで、児童に資料から大切な部分を読み取らせようとしても、必要以上に下線を引いたり、そのまま書き出すだけの作業にとどまることがしばしばであった。また、資料の情報を取り出すことはできても、言葉の意味が分からないために、社会的事象の意味を十分に理解することができなかった。

そこで、取り出した情報を分かりやすく自分の言葉で箇条書きにさせることで、児童に社会的事象の意味を十分に理解させる学習を行った。

活動例2 見沼代用水を白地図に記入し、他の川との立体交差から、人工的に作られた用水であることを読み取る。

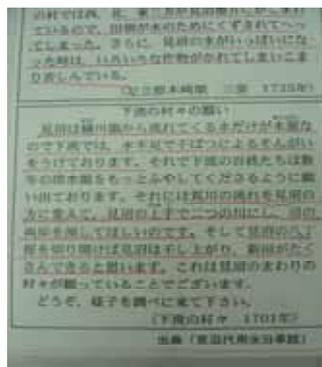
ここでは、児童に見沼代用水の白地図を渡し、見沼代用水の流れを赤で、その他の川を青でぬる作業を行った。色をぬりながら見沼代用水は様々な川と合流したり、立体交差をしていることに気付く児童が多く見られた。そこで、自分が気付いたことを一つ一つ白地図に記入させることにした。児童は気が付いたことを細かく書き出すことにより、見沼代用水の特徴をつかむことができた。また、地図帳を活用することで、見沼代用水はどこからどこまでを流れているのか、どこで合流や立体交差をしているのかをつかむことができた。さらに、気付いたことを学級で発表させることで情報を補完、共有することができた。



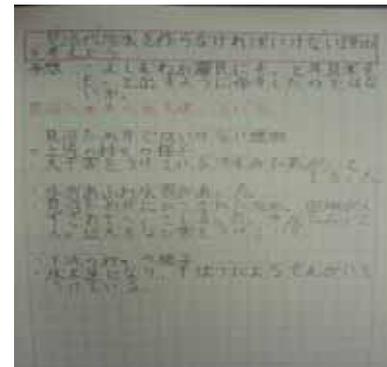
白地図への書き込み

活動例3 見沼代用水を開発しなければならなかった理由を文章資料を活用して調べる。

ここでは、一つ一つの資料から情報を取り出し、それぞれの項目についての共通点を探る活動を行った。児童は文章資料を丁寧に読み、なるほどと思ったところや自分が初めて知ったところに線を引き、それぞれを箇条書きにする作業を行った。ここで箇条書きにする条件として、箇条書きにした内容を友達に説明ができるよう指示をした。そこで、児童は、意味のわからない語句については教師に質問したり、国語辞典を用いたりしながらわかりやすい箇条書きに直す作業を通じて、社会的事象の意味を理解することができた。また、児童が書き出した箇条書きをお互いに見合うことで、情報の補完を行うと共に、社会的事象のおおまかな概要を確認することができた。



情報の抜き出し



箇条書きにしたノート

他の社会的事象との関連や、相違点を考えさせる時間を設定する。

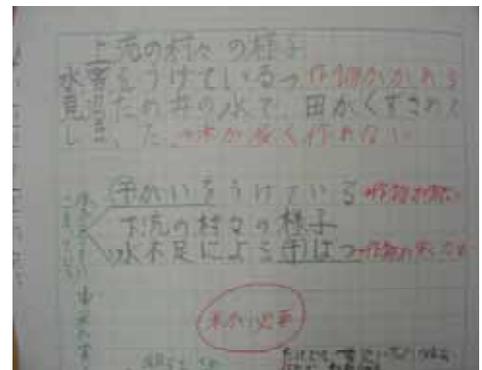
[調査・研究の方策(1) -]

これまで、児童は社会的事象の意味を理解しようとしても、資料に書かれていることを抜き出すだけで、「なぜ、そうなるのか。」「こうなることで、その後はどうなるのか。」を十分に考えることは難しいことであった。そのため、複数の資料を関連づけて、人々の工夫や努力について考えることはできなかった。

そこで、2つの資料を提示して共通点を探り、人々はどのような問題を抱えていたのかを明らかにすると共に、これまでの学習とのつながりを考えさせ、社会的事象の関連をつかませる活動を行った。また、その問題を解決するためにどんなことを願ったのかを考えさせる活動を行った。

活動例4 見沼代用水を開発しなければならなかった理由を文章資料を活用して調べる。

ここでは、活動例3で児童が作成した箇条書きの上流の村々、下流の村々、それぞれ願いの共通点を探る活動を行った。児童にとっては難しい学習であったが、同じ言葉、似たような意味の言葉を見つけるよう指示をしたことで、それぞれの村々で干害や水不足が起きていること、水に関して村人が困っていることをつかむことができた。



児童のノート例

さらに、干害や洪水になると人々の生活はどうなるのかについて話し合いをさせた。ここでは既習内容との関連を図るために、これまで学習した内容を提示することで、意見の理由付けを行わせた。児童は「水がないと米作りができない。できないと年貢を納めることができない。納められないと・・・。」や、「水がないと米作りができない。できないと農民は食べるものがない。食べるものがないと・・・。」というように、思考を連続させることができた。

上流の村々の願い

この村は近年つづいて田畑とも干害をうけている。ここ九年間のうち三年は大干害をうけ、五年は見沼ため井の水があふれて田畑共に水害をうけている。

高台の方はたいてい干害をうけていたが、う年は何十年ぶりに高地の田畑まで一面の大水害をうけた。畑の作物は少しながら作っていたがあまりねだんが高いため、八百屋でも売れなくて百姓を助けることができない。そのうえ、この村では西、北、東三方が見沼ため井に囲まれているので、田畑が水のためにくずされてへってしまった。さらに、見沼の水がいっぱいになったときは、いろいろな作物がかれていしまいこまり苦しんでいる。

(足立郡木崎領 三室 1725年)

下流の村々の願い

見沼はおけ川領から流れてくる水だけが水源なので、下流では水不足で干ばつによるそん害をうけております。それで下流の百姓たちは数年の間、水源をもっとふやしてくださるようお願い出ております。それには、荒川の流れを見沼の方にかえて見沼の上手で二つの川にし、沼の兩岸を流してほしいのです。そして見沼の八丁堤を切り開けば、見沼は干し上がり、新田がたくさんできると思います。

これは、見沼のまわりの村々が願っていることでございます。

どうぞ、様子を調べに来てください。

(下流の村々 1701年)

資料

いざわ や そ べ え じんぶつねんびょう
井沢弥惣兵衛 人物年表

ねん 年	おも 主なできごと
1663	や そ べ え う いま わ か や ま け ん 弥惣兵衛が生まれる(今の和歌山県)
1690	ばくふ しごと 幕府の仕事につく
1700	い ま わ か や ま け ん ようすい しごと きしゅうはん(今の和歌山県)で、ふじさきい用水をつくる仕事をする
1707	い ま わ か や ま け ん おだ ようすい しごと きしゅうはん(今の和歌山県)で、小田い用水をつくる仕事をする
1710	い ま わ か や ま け ん しごと きしゅうはん(今の和歌山県)で、かめ池をつくる仕事をする
1722	かわ えど いま とうきょうと とく川よしむね(しょうぐん)によばれ、江戸(今の東京都)にひっこす
1725	い ま ち ば け ん しごと しもふさ(今の千葉県)で、いい沼をつくる仕事をする
1728	みぬま だいようすい 見沼代用水をつくる
	い ま ち ば け ん しごと しもふさ(今の千葉県)で、てが沼をつくる仕事をする
1729	えど ふた かわ なお こうじ 江戸の二つの川を直す工事をする
1731	みぬま かんせい 見沼つうせんぼりが完成する
1734	かわ おおい川をなおす
1737	びょうき 病気になる
1738	や そ べ え 弥惣兵衛がなくなる

文章資料の読み取り方

- 1 大事なところ、なるほど！と思ったところ、えっ！？思ったところに線を引く。
- 2 線を引いたところをかんたんにまとめ、ひとつひとつをノートに書き出す。
(かじょう書き)
- 3 書き出した内容の共通点や、人々の工夫や努力、願いなどを考える。

等高線の見方

- 1 地図上の場所が、およそどのくらいの高さかが読み取れます。
- 2 等高線の間かくは、けいしゃの様子を表しています。
(間かくが広ければ、ゆるやかなけいしゃ、間かくがせまければ、急なけいしゃです。)

人物年表の見方

1 人物がどのような働きをしたのか、わかる
ところに線を引く。

2 人物の働きの共通点を考える。

その人物の特ちょうがわかる！

3 人物の働きと、できごとの関連に着目する
なぜ、そのようなことをしたのか、理由が
わかる！

古地図の見方

1 みたこともないものに着目する。

2 それは、何でできているのかを考える。

3 それは、なぜそこにあるのかを予想する。
当時の人々の工夫や努力、願いがみえてく
る！